



芝浦工業大學

SHIBAURA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

Department of Bio-Science and Engineering
College of Systems Engineering and Science
Shiba Institute of Technology
307, Fukasaku, Minuma-ku, Saitama 337-8570 Japan
Tel: +81-48-720-6012 Fax: +81-48-720-6011

28th Feb 2018

APPRECIATION LETTER

Prof. Ir. Dr. Al-Khalid bin Hj Othman,
Dean of Faculty of Engineering, UNIMAS

Dear Prof. AL-Khalid bin Hj Othman,

Our collaborative gPBL was focused by the public relation officer and it became into several pages in published our University Journal. Thank you for your special collaboration. Let's keep in touch. See you next Aug in UNIMAS!

Best regards from Japan,

渡邊直夫

Nobuo Watanabe, Ph.D.
Associate Professor,
Shiba Institute of Technology,
Biofluid Science Laboratory, Biomedical Engineering course,
Dept. of Bio-Science and Engineering, College of Systems Engineering and Science,
Mail Address: 307 Fukasaku, Minuma-Ku, Saitama-City, Saitama, 337-8570 Japan
Room-102, 6th Building, Ohmiya-Campus
Tel: +81-48-720-6012 Fax: +81-48-720-6011
Email: nobuo@sic.shiba-ura-it.ac.jp

引率職員

英語を使ったコミュニケーションに苦勞しつつも、文化的なギャップを前向きに捉え活動に参加している学生が非常に多いと感じました。マレーシア学生も非常に友好的であり、PBLを通じ勉学に励みつつ国際交流など多くの経験を積むことができたのではないのでしょうか。



長島 紀奈さん
(財務部 経理課)

参加学生

山下 愛さん (生命科学科3年)

語学だけの留学ではなく、生命科学の分野で専門英語に触れる絶好の機会だと思い、今回グローバルPBLに参加しました。私のチームは、キクラゲ・藻から抽出される脂質のエネルギー利用がテーマ。現地で生育している各サンプルを洗浄、乾燥、研磨し抽出した結果、キクラゲは0.65%、藻については1.36%の遊脂質が含まれていて、藻から抽出できる脂質をバイオディーゼルとして使用することは簡単に非常に効率的であると結論付けました。

プログラム中はマレーシア人の笑顔とやさしさに救われる場面が多く、私も何らかの形で今後留学生をサポートできるように恩返しをしたいと思います。



8.30

閉会式にて、前日行われた最終発表会の優秀者を表彰。2週間を共に活動したマレーシアの学生と思い思いに別れを惜しむ様子が印象的でした。

8.28

2人が発熱を訴え、大学内にあるクリニック受診に付き添い。生命医工学コースでは作成した装置を実際に作動させ、発生した電力をグループごとに競う競技会を開催しました。数値結果は最終発表に反映させます。



21 そのほか、名門理工系大学へ約2週間遠航し英語を学ぶ「工学英語研修」、現地の大学に通いながら集中的に英語を学ぶ「短期留学研修」など、夏休みを利用して600人以上が海外プログラムに参加しました。

夏のグローバルPBL



現在、芝浦工業大学では「世界で活躍できるグローバルエンジニアの育成」を目標に、2023年にはすべての学生が在学中に少なくとも1回は海外で学べるよう、学習環境の整備を進めています。10年前の2007年度は年間37人だった海外派遣学生数も、2016年度には年間1,000人を超えました。今回、海外の学生と専門分野における課題解決に取り組む「グローバルPBL」のプログラムのひとつを紹介します。

引率職員レポート

マレーシアサラワク大学

8月17日～31日(15日間) 生命科学科34人参加

生命科学コースと生命医工学コースの2コースに分かれ、マレーシアサラワク大学の学生と混合チームを組みグループワークを実施しました。生命科学コースはチームごとに実験テーマを定め、実験分析に取り組みました。

- ・キクラグ・藻から抽出される脂質のエネルギー利用について
- ・バイオエタノールの精製と活用について
- ・菌や微生物の色素を利用した太陽光発電について
- ・廃棄物のエネルギー利用について

生命医工学コースは、「自然エネルギーシステムの開発」をテーマとし、落下する水流を利用し電力を発生させる装置を作成しました。

Sarawak river cruise に乗船



8.27

クチン博物館にて現地の風土や民俗、信仰について学んだ後、クチン市街地を視察。夕刻には Sarawak river cruise に乗船し、クチン市街地の夕景を楽しみました。



8.26

マーケット見学と海水浴のため大学から100km以上離れたルンドゥという街へ。海岸でのドッジボールやサッカーを楽しみ、マレーシア学生と親睦を深めました。



8.25

2週間あるプログラムのうち、後半の引率を担当。両コースとも課題に対する実験や総括に向けたディスカッションを実施していました。生命科学コースは大半の実験を終え最終サンプルの抽出という段階、生命医工学コースはいずれのグループも装置製作中。

現地の学生と共同で製作中

